

園名 白百合幼稚園

はばたくなら③

生活や遊びの中で様々な決まりを守りながら互いを意識し、行動に移そうとする

はばたくなら⑥

自然など身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ

3・4歳児 11月頃

取組について

【4歳児】

○本園は園庭に『子どもの森』という自然に囲まれ、近くに農園もあり、普段から大好きな虫や植物、農作物に触れる機会が多い。年中児は虫に興味がある子どもが多く、虫を探したり、捕まえて虫かごで観察したりする姿が多く見られた。

○虫に対する興味はあるが、植物や農作物に対する興味が薄いように感じられた。虫に対する興味と同じように、植物や農作物にも興味をもってほしいという思いから、ニセモノ探しや葉っぱを使った遊びを取り入れ、更に、チューリップの球根を植えたりそら豆とスナップエンドウを栽培したりすることで、植物の成長にも興味をもってほしいと考えた。

【3歳児】

○本園では年少児から身に付けてほしい姿として、『生活や遊びの中でさまざまな決まりを守りながら互いを意識し、行動に移そうとする姿』を掲げ、毎日の生活の中で、繰り返し経験することで、身につけてほしいと願っている。学年やクラスで使用する共用の場、「トイレ」を具体例にあげ、次の友だちが使いやすいように、整理整頓することを自ら意識できるようになってほしいと考える。

実践事例

子どもの姿

保育者の思い

子どもの声

保育者の関わり

【4歳児】「ニセモノさがし」※「ニセモノ探し」…園庭の草花など自然の中に画用紙や異なる素材で作ったニセモノの葉っぱ等を隠し、それを見つけるとシールをもらえる。

ねらい 身近な自然を通して植物に興味をもつ

戸外遊びでは固定遊具で遊んだり虫探しをしたりすることが多かった

あつたー♪

みつけたっ☆

子どもの森に落ちている木の葉や草花など自然物にも興味をもってほしい

友達と一緒にニセモノ探しを楽しみ始めた

子どもたち自らニセモノを隠したいと形や色が似ているものを探しその側にニセモノを隠す姿も見られた

「ニセモノ探しというゲームをしよう!」とゲーム感覚で自然物に目を向けられるよう声をかける

これ画用紙の草やな!

戸外遊びの度に「ニセモノ探したい!」と言う子が増えた。また、どんぐりが落ちていること、キンカンが色付いていることに気付き、友だちに伝える姿も見られた

少しずつ植物に興味をもってきたので、何かできないかな?

毎年恒例のちゅうりっぷの球根植えに加えて初めての試みでそら豆とスナップエンドウの苗を植えることを提案する

向きを間違えないように慎重に植える姿が見られた

毎日、興味をもって観察し、成長を楽しみにしている様子が見られた

大きくなってきたかな?

しっかり土をかけなきゃ!

とんがってる方が上になるように...

もうできたかな?

・今まで気付かなかった自然物にも「ニセモノ探し」を通して観察する力がつき、キンカンの匂いを嗅ぐことで食べられるのかと疑問をもったり、どんぐりの中には虫がいることを学んだり、興味・関心が高まったように思う。

・植物に興味・関心をもちはじめたことで、個人栽培のちゅうりっぷを観察する子どもも3歳児の時より増えた。また、そら豆とスナップエンドウも観察しやすい場所に置くことで、毎日のように観察し、水やりをしたり変化を見つけたりと以前より子どもたちが植物の成長にも興味をもつことができたと感じる。

実践事例【3歳児】「次、どうぞ！」

子どもたちだけで並んでトイレに行けるようになってほしいな・・・

ねらい：生活や遊びの中でさまざまな決まりを守る大切さに気付く

【幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿】

トイレに行く時に、1学期の間は教師が並んでいる子を順番に名前を呼び、呼ばれた子からトイレに入っていた



2学期に入り、トイレの並ぶところに、『①、②、、』と視覚的に分かりやすいように番号を掲示する。この掲示を始めた時期が運動会と重なったため、子どもたちに親しみをもってもらいたいという思いから、運動会でマリオのお遊戯をしたので、マリオ・ルイーザなどのキャラクターと共に並び順を掲示した

マリオとルイーザちゃん！

並んでいる次の友達に空いたことを声を掛けるように働きかけた。子どもたちが並んでいるところをトイレの中から見守る

空いたよ、どうぞ！

〇〇ちゃん、どうぞ！

自ら並びに行きトイレの順番を待つことができるようになったがトイレの中が見えにくいため、「トイレあいている？」と保育者に聞き、頼るようになる
【道徳性・規範意識の芽生え】【言葉による伝え合い】

少しずつ子どもたちで声を掛け合うようになってきた【協同性】

子ども同士で声を掛け合い順番を待つようになった
【社会生活との関わり】

上靴、スリッパが脱ぎっぱなしにされていた

次の人のことを考えて、きれいに揃える習慣をつけてほしい

スリッパを置く場所が分かりやすいようにテープをひく

上靴をくるりんぱして置こう

【思考力の芽生え】【道徳性・規範意識の芽生え】



- 子どもたちが視覚的に分かりやすいように工夫することで、順番を守って生活することの大切さを理解できるようになり、規範意識の芽生えとなった。
- 自分が声を掛けないと友達がトイレが空いたことに気付けないことから、「声を掛けよう」「教えてあげよう」とするようになり、自分のできることや知っていることを伝え合うことの大切さを一人一人が感じるようになった。
- みんなが使うものを整理整頓することで、みんなで気持ちよく生活するためには、どうしたらいいか考えるきっかけとなり、幼稚園の物を大切にするという社会生活との関わりに繋がる意識が高まった。

(まとめ)

【4歳児】

・教師の働きかけや環境構成を工夫することで、子どもたちの興味を引き出し、積極的に自然物に関わろうとする姿が見られるようになった。

【3歳児】

・視覚的教材を使用することで、子どもたちが目で見て理解したり、声を掛け合ったり、自ら行動し、毎日の生活が過ごしやすくなることを改めて感じた。

(成果)

【4歳児】

・子どもたちからタンポポが咲いていることや甘夏の色が変わってきたことに気付くことで、自然物に興味関心が出てきて、更に周りの自然物や植物の変化に気付く力がついた。

・そら豆とスナップエンドウを身近に置いたことによって、自然物や植物に興味を薄く子どもにも目に入るようになり、少しずつ興味が高まった。

【3歳児】

・子どもたちで声を掛け順番にトイレに行けるようになってきた。

・次の友達が使いやすいようにするためにはどうしたらいいか一緒に考えたり、話をしたりすることで、友だちのことを考え行動できるようになってきた。

(課題)

【4歳児】

・興味のもち方には個人差があるので、今ある環境を見つめ直し、みんなが興味をもてるような環境を考えていきたい。

・共同栽培する時の世話の仕方などをみんなで考え工夫していきたい。

【3歳児】

・整頓する習慣をつけることはなかなか難しく、時間がかかるが繰り返し子どもたちに伝えていくことで、みんなが過ごしやすい幼稚園作りに繋がると感じた。

・トイレや手洗い場など、みんなが共同で使用する場で、子どもたちが主体的に生活を進めていけるようになるためには、どのような援助が必要か今後とも話し合っていきたい。